

市民開発の最新動向

📌 労働力不足の深刻化:
2025-2040年にかけて生産年齢人口が減少、業務効率化が急務。
市民開発は「全社員のDX人材化」を通じた解決策として注目。

🤖 技術革新の影響:
ローコードツールの進化により「非IT人材でも高度なアプリ開発」が可能に。

✅ 効果の顕在化:
業務自動化アプリ「内製化による生産性向上」事例が増加。

ポイント

👤 開発者数: 29人 → 36人 (+24.1%)
スキル習得者の増加により活動が活発化し、裾野が拡大。

🤖 ロボット数:
稼働中: 22体 → 40体 (+81.8%)
開発中: 22体 → 41体 (+86.4%)
自動化範囲の拡大と開発ベースの加速が顕著。

🕒 効果指標:
削減時間: 103.5千時間 → 139.6千時間 (+34.9%)
削減金額: 65百万円 → 85百万円 (+30.8%)
業務効率化の成果が大幅に増大。

各指標の変化

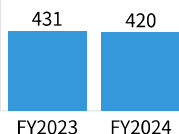
指標	FY2023	FY2024	変化	変化率
利用者数	431人	420人	-11人	-2.6%
開発者数	29人	36人	+7人	+24.1%
稼働中ロボ数	22体	40体	+18体	+81.8%
開発中ロボ数	22体	41体	+19体	+86.4%
削減時間	103.5千時間	139.6千時間	+36.1千時間	+34.9%
削減金額	65百万円	85百万円	+20百万円	+30.8%

課題と対策

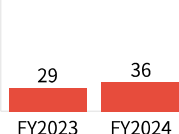
課題領域	FY24課題	FY25対策
ガバナンス	シャドーIT・アプリ乱立	ガイドライン制定による統制（不要アプリ廃止など）
開発者育成	トレーニング・サポート体制の不足	学習カリキュラム拡充・サポート要員の育成
利用者数減少	新規ユーザー獲得・継続利用の不足	サンプルロボ提供などプロモーション強化

グラフ

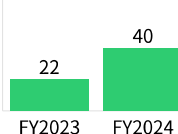
利用者[人]



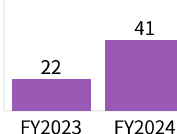
開発者[人]



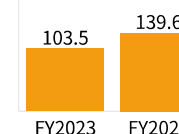
稼働中ロボ[体]



開発中ロボ[体]



削減時間[千時間]



削減金額[百万円]

